

ドローン物流で地域活性化 孤独や孤立をしない未来を作る



わたしたちは、人々が集い、新たなコミュニティを形成する場所となる「コミュニティデポ」という新しい形の集配拠点を創りたいと考えています。

高齢化や買い物弱者の問題は地域課題にとどまらず、国内全体の課題となり、物流インフラ提供、特に人手不足による生活必需品サービスや機能の維持が今後さらなる社会問題となると予想されています。

地域の物流ニーズを業態問わず、地域内で完結する需要横断的にドローンなどを活用した物流サービスを提供する新たなモデルを目指します。

【ドローンで創る。あたらしい、暮らし。】は、なぜ必要？

課題1 物流問題	課題2 買い物弱者	課題3 孤立・孤独化	課題4 ドローン活用 の課題	課題5 地域活性化の 課題	課題6 医療機器 医薬品物流 問題	課題7 災害支援の 課題
人手不足による 配達遅延や運送 効率低下、交通イン フラ老朽化、火 害時の対応力不 足、配送コスト増 加が課題	高齢者や交通手 段不足、物流コス ト増加、地方・郊 外での店舗減少 による買い物難 題	高齢者や社会的 弱者の孤立と孤 独。地域社会の 高齢化、精神的交 渉不足、若者の 都市集中などが 課題。	初期導入費用、 維持メンテナンス 費、人材育成 コストの高さや 法的な規制により 社会実装が進ま ない。	人口減少、高齢化、 交通網不足、経済 低迷、若者流出な どに伴う活力低下 が課題	物流遅延は商品 不足や医療機器 の供給に重大な 影響を与えるこ となどが課題	早期対応や、物 資供給の遅れ、 傷病搬送の遅れ、 人員確保が課題

以下の方で解決します

複数企業やモビリティを活用し、拠点間やデポ・ドローンステーションへの配送などを実施。届いた荷物を取りに地域住民が、公民館+デポ+コミュニティデポに足を運ぶ。新たな人の流れができることによる地域コミュニティの活性化、孤立・孤独対策につなげる。平時には配送に使用するドローンを、有事の際には命を支える救援活動に活用するモデルを構築。さらに、物流のみならず、ドローンや技術活用にて、さまざまな地域課題を解決しながら、コミュニティ創生・地域活性化と孤立回避につなげる。

